

ポイント

◆◆特集◆◆

★車載型センシング技術による3次元データの収集★

(国土交通省 道路局 道路交通管理課 高度道路交通システム (ITS) 推進室)

近年、急速な性能の発展が見られる車載カメラ等市販品を活用したセンシング技術の研究・開発が進んでおり、今後の利活用が見込まれている。こうした背景から、国土交通省では、必要な精度を満たし、導入コストだけでなく、運用コストを含め出来るだけ低価格な車載型センシング技術を確立し、道路施策へ活用することとしている。本稿では、国土交通省で進めている車載型センシング技術の活用の概要を紹介する。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★橋脚工事により、近接する養魚池施設の水質悪化を招き、  
効用を喪失させたとして国家賠償責任の成否が争われた事例★

〈平成28年8月31日 大阪高等裁判所第6民事部判決〉

(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、橋脚工事の杭打設により、近接する控訴人所有の養魚池の井戸の水質が悪化し、養魚池施設の効用が喪失したとして、国家賠償法1条1項に基づく損害賠償請求がなされたものである。

【判決要旨 (棄却)】

控訴人は、被控訴人らが本件工事の際に窒素やリンの濃度が高い自由地下水を深層水に混入させて、養魚池施設の井戸の水質悪化を招き、使用不能にしたと主張するが、被控訴人が行った水質調査結果によると、本件工事の前後で水質悪化は認められず、本件工事との因果関係は認められない。本件養魚池施設の効用喪失と公務員の行為との間の因果関係の主張・立証責任は控訴人にあるのであり、被控訴人が工事前の水質調査義務を怠ったとして控訴人が立証責任を負うのは相当でないとする控訴人の独自の見解に基づく主張は採用できない。

◆◆TOPICS◆◆

★北九州市における国家戦略道路占用事業の取り組み★

～道路空間を活用したまちのにぎわい創出～

(北九州市 建設局 道路計画課)

北九州市では、平成22年に道路整備の課題や新たなニーズを踏まえた今後のみちづくりの方向性を示した「北九州市道路整備中長期計画」を策定しました。

平成27年に当該計画を見直し、これまでの「造るみちづくり」に加え「活かすみちづくり」を道路

政策のコンセプトに掲げ、道路空間を活用したまちのにぎわいづくりに取り組んでいます。

本稿では、民間団体による道路空間を活用したにぎわい創出の取り組みとして「北九州市国家戦略道路占用事業」についてご紹介します。

---

## ◆◆地域における道路行政に関する取り組み事例◆◆

---

### ★次世代型交通ターミナルの実現に向けて★

#### ～国道15号・品川駅西口駅前広場 事業計画「中間とりまとめ」～

(国土交通省 関東地方整備局 東京国道事務所)

国道15号・品川駅西口駅前広場については、昨年2月に道路上空を活用した未来型の駅前空間に関する整備方針をとりまとめ、有識者や民間事業協力者（京急電鉄・西武プロパティーズ・JR東日本）等とともに、事業計画の検討を進めてきたところです。

今般、次世代型交通ターミナルの整備を含む事業計画の「中間とりまとめ」を策定しましたので、お知らせいたします。

今後は、事業計画の深化を図るための検討会を設立し、産学官連携の下で今年度内のとりまとめに向けて検討を進めます。

.....

### ★徳島県西部の観光ゲートウェイについて

#### 観光・まちづくり・防災拠点 重点道の駅「みまの里」のご紹介★

(徳島県 県土整備部 道路整備課)

道の駅「みまの里」が、平成30年6月徳島県美馬市に開駅しました。

産地直売所、農家レストラン、交流センターの地域振興施設と防災施設を有し、地産地消や六次産業化の推進、さらには地域防災力の強化を目指した事業計画が高い評価を頂き、「重点・道の駅」に選定されています。

その道の駅「みまの里」における取り組みを紹介します。

.....

### ★小松島市における道路管理と現状について★

(徳島県 小松島市 産業建設部 都市整備課)

小松島市では、橋梁や道路付属物（道路照明）の点検、及び路面性状調査を実施しています。進行する道路の老朽化に対し、調査を踏まえた維持管理について紹介いたします。

## ◆◆編集後記◆◆

自然災害はいつ・どこで起こるかわからないため、日頃からの備えが大切です。特に今年は、例年と比べて地震や豪雨、台風などの自然災害が多く発生しているように感じられます。災害に対する認識を深め、対処する心構えや準備をするため、毎年9月1日を防災の日、また、この日を含む1週間（8月30日～9月5日）は防災週間と定められており、全国各地で防災訓練等が行われています。自身は、毎年9月を防災月間と決めて、自治体の防災訓練への参加や家族間での避難場所・連絡手段の確認、さらに、備蓄品の準備・更新など防災意識を高めるように心がけています。

災害発生直後の被災地域では、ライフラインが止まり、復旧までかなりの時間を要することがあります。そのため、備蓄品の中でも非常食の充実を力を入れることにしています。東日本大震災以降、救援物資が手に入るまでに必要な備蓄品の量は7日分といわれていますが、実際に非常食を備えようと準備を進めてみると、1人分でも量が多く、また、消費期限の管理が難しいことがわかりました。そこで、カップラーメンやレトルト食品、缶詰など、普段から食べているものを多めに購入し“消費期限が近いものから消費→減った分だけを補充する”を繰り返す「ローリングストック方式」を取り入れて、無理・無駄のない方法での備蓄を試みています。とりわけ缶詰は、長期保存が可能だけでなく、炭水化物が多くなりがちな避難生活において、たんぱく源となる肉・魚や豆類、ビタミンが豊富に含まれるフルーツまで揃うので多めに備えるようにしています。このほかにも、避難所等への持出用として、飲料水や野菜ジュース、五目ご飯(アルファ米)などが入った非常食セット（長期保存5年）も準備しています。ひと昔前までは、非常食といえば乾パンが主流であり、最低限の空腹を満たすものという印象でした。ところが、今年、更新期を迎えた非常食を食してみたところ、栄養バランスや摂取カロリーがしっかりと考えられているだけでなく、美味しさに加えて温められるものもあるなど、食事として味わえるものに進化していることに感心させられました。特に、温かい食事を摂ることは、避難生活中に溜まりがちなストレスや疲れを和らげる効果があるそうです。ちなみに、非常食セットは、消費期限が来たら新しいものと丸ごと入れ替えるだけなので管理が簡単です。

### 「備えあれば憂いなし」

備蓄品を準備していると頻りに目にしますが、普段から準備を万全にしておけば、何事も心配することは無いという中国の古典「書経」にかかれた言葉です。遥か2千年前に生まれたこの言葉が、現代においても防災対策の教訓とされていることに感慨深い気持ちになります。学生時代、「そなえあれば“うれしいな”」と読み違えた友人がおり、皆で笑い合ったと同時に、あながち間違っていないと感じた記憶が残っています。今後、大きな災害が発生することがないように願いつつ、いざという時には落ち着いて行動できるよう十分に備えたいと思っています。(K)